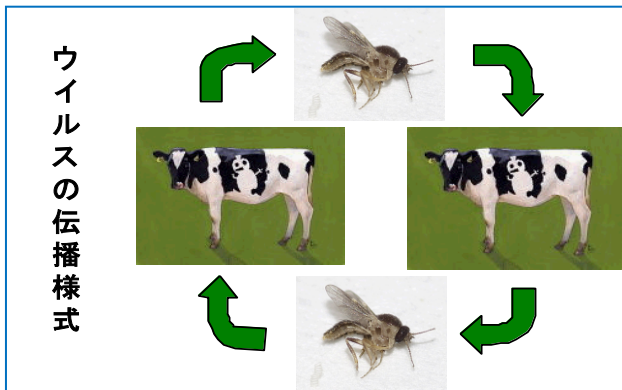


〔家保のページ〕

牛の異常産を予防しよう！

真庭家畜保健衛生所

そろそろ気候も温暖になり、蚊やヌカカなどが活動を始める季節になります。これらの吸血昆虫が下図のように牛からの吸血を繰り返すことにより、異常産を起こすウイルスが拡がっていきます。



岡山県では平成10年と16年と20年にアカバネ病が、平成14年と17年にアイノウイルス感染症が流行しました。

アカバネウイルスやアイノウイルスなどが妊娠した牛に感染すると、夏から秋にかけては流産、冬から初春にかけては体型異常や関節の湾曲、脳の形成異常、奇形などがよくみられます。また、異常産が発生すると、子牛が廃用になるのはもちろんのこと、奇形による分娩事故で母牛までもが廃用となる場合があります、被害は甚大です。



子牛の関節湾曲

アカバネ病などのウイルス性の異常産はワクチンで防ぐことができます。プログラムは右上図のとおりです（異常産3種混ワクチンの場合）。特に1年目は1回接種のみでは免疫獲得が不十分で、発症したケースがあります。必ず2回接種し

ましよう。また、ワクチンで獲得した免疫は徐々に低下していくため、2年目以降も毎年1回接種しましょう。

〈プログラム〉

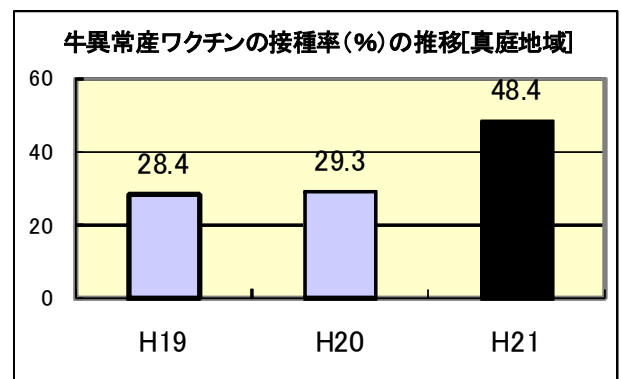
- 接種時期
4月上旬～6月中旬（蚊が出る前まで）
- 接種方法
初妊牛：2回接種（4週間隔）
2年目以降：1回接種

ウイルス性の異常産はワクチンで防御できるにも関わらず、岡山県のワクチン接種率は中国・四国地域で最も低いレベルになっています。

平成20年度異常産ワクチン接種率

岡山県	28%
S県	54%
H県	68%
T県	52%

本年度は県下のワクチン接種率は向上しました。特に真庭地域では推進会議などでワクチン接種を強く呼びかけたこともあり、平成21年度のワクチン接種率は大幅に向上しました。



今後も関係機関が丸一となって農家への指導に努め、ワクチン接種率向上を図っていききたいと思えます。

ワクチンの問い合わせ：各市町村又は岡山県畜産協会各支部